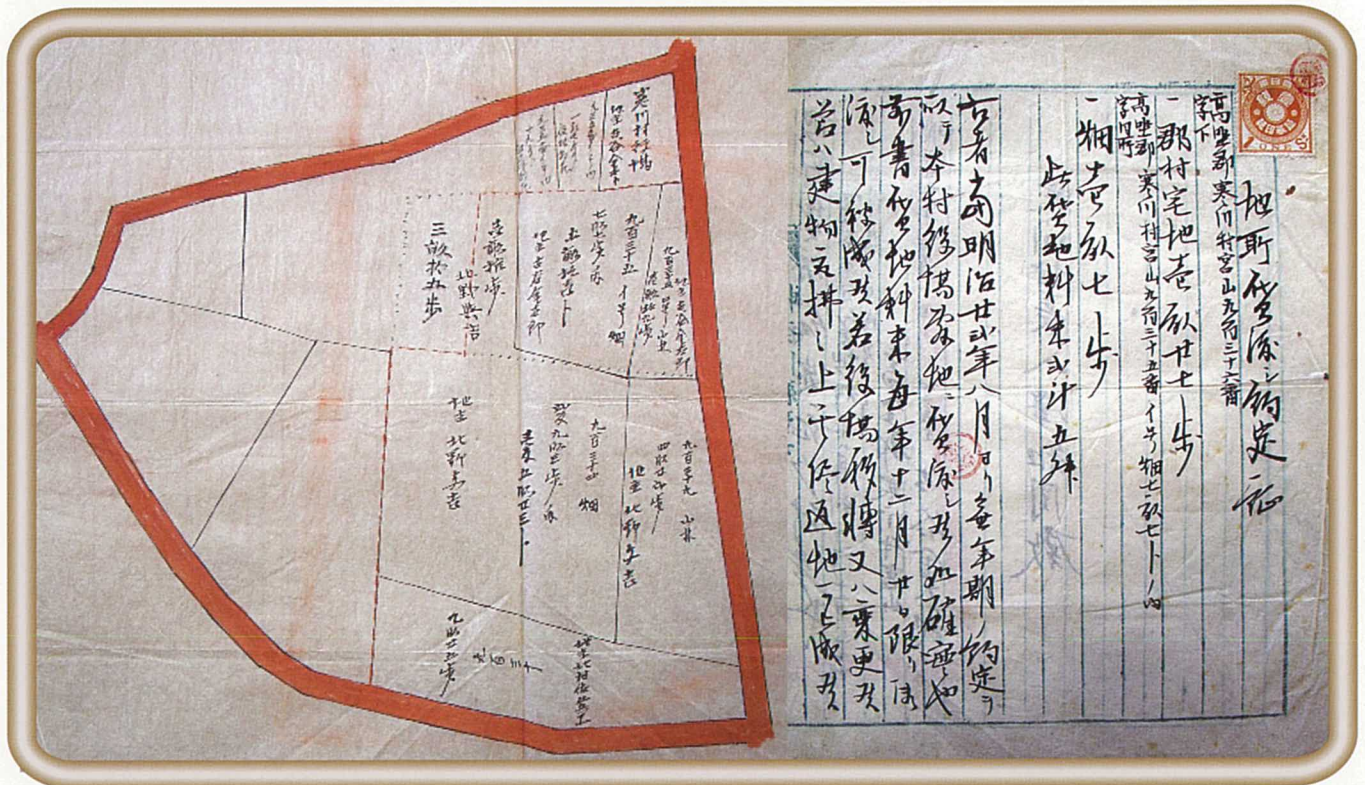


寒川文書館だより

Vol. 6



村役場の敷地の賃貸契約書（明治22年）

第6号目次

- 資料紹介 2
- 運営審議会委員・町史編集委員を委嘱 3
- 第6回企画展「広報さむかわの60年」 4
- ミニ展示始めました／寒川の先人たち 5
- 収蔵庫の資料から(3) 6
- 文書館 最近のできごと 7

第6号
2009.9.30
寒川文書館

資料紹介「地所貸渡し約定証」(寒川町蔵)

寒川村が発足した明治22年(1889)に、村役場の用地について村と地主が交わした賃貸契約書で、次のように記されています。

地所貸渡し約定証

高座郡寒川村宮山九百三十六番
字下

一郡村宅地一畝廿七步

高座郡寒川村宮山九百三十五番イ号畑七畝歩ノ内
字同所

一畑壹畝七步

此貸地料 米貳斗五升

右は当明治廿貳年八月ヨリ無年期ノ約定ヲ以テ、本村役場敷地ニ貸渡し候処確實也、前書貸地料米毎年十二月廿日限り御渡し可被成候、若役場移転又ハ変更候節ハ、建物取払之上其戻返地可被成候、地所貸渡し約定証、如斯候也

明治廿二年八月十日

高座郡寒川町宮山

貸渡主 古谷金太郎^印

寒川村長入沢知周殿

これによれば、宮山の2筆合わせて3畝4歩(約310㎡)の土地を、村長入沢知周の名で地主の古谷金太郎から借り受ける契約を結んでいます。

古谷金太郎は明治25年5月の第2回村議会議員選挙で当選。以来、3期16年にわたり村会議員を、明治41年4月から大正2年3月までの約5年間は寒川村収入役を務めるなど、明治中後期から大正初年にかけて村政に貢献した人物でした。

寒川村ではこの契約を受け、ここに役場を建てることになりました。明治22年度予算には役場建築費として170円90銭4厘が計上されており、その財源は初代助役・真田喜三郎らからの寄付金が充てられました。

建物は間口3間半、奥行6間という規模です。借地料として1円33銭の予算が組まれているので、この金で地代の米を調達したものと思われます。

寒川村の発足は明治22年4月1日ですが、村長らを選出する初議会は7月2日に開かれました。その後7月29日に村議会議細則などを決議、9月30日には最初の予算案などを審議しています。

役場の着工は予算案の可決後とすると、明治22年10月以降と考えられます。では7月と9月の議会はどこで開かれたのでしょうか。7月以降、村長、助役らはどこで執務をしていたのでしょうか。

同じ予算書には「借家料」として7円50銭が計上されています。23年度予算ではこの項目がなくなっていることから、この借家が、新しい役場ができるまでの暫定的な執務場所兼議場だったものと思われます。しかしそれがどこだったのか、決め手になる史料はまだみつかっていません。

この契約書の場所に建った役場は、昭和51年(1976)に現在地へ移転するまで、寒川の行政の中心であり続けました。

平成23年2月28日まで開催中の企画展「寒川村ができたころ」で、この史料の実物を展示中です。ぜひご覧ください。(高木秀彰)



寒川村役場

運営審議会委員・町史編集委員を委嘱

寒川文書館運営審議会は、文書館の事業計画などに関する諮問に応える機関で、7名の委員で構成されています。初代の委員は1期2年の任期を終え、平成21年6月29日付けで2期目の委員が町長から委嘱されました。

また、町史編集委員会は、歴史学等の専門家6名以内で構成され、町史刊行物などの編集方針を定め、執筆や編集などの実務も担います。任期は3年で、この4月1日付けで5名を委嘱しました。

どちらも文書館の運営に幅広い見地から貴重なアドバイスをいただくことができます。両委員会の活躍にご期待ください。委嘱されたのは次のみなさんです。

文書館運営審議会

選出区分	氏名	備考
町議会議員	海老根 照子	
学校長	大川 勝徳	旭が丘中学校長
町史編集委員	木村 勇	会長 日本大学考古学会監事
学識経験者	小川 千代子	副会長 国際資料研究所代表
資料所蔵者	野村 尚広	寒川神社権祢宣
町民公募	阿諏訪 青美	
町民公募	政田 陽英	

任期：平成21年6月29日～平成23年6月28日

町史編集委員会

選出区分	氏名	備考
宗教	圭室 文雄	明治大学名誉教授
考古	木村 勇	日本大学考古学会監事
古代・中世	鳥養 直樹	文教大学講師
近世	大口 勇次郎	お茶の水女子大学名誉教授
近・現代	内海 孝	東京外国語大学教授

任期：平成21年4月1日～平成24年3月31日



委嘱式後の町長あいさつ（7月3日）



町長より委嘱状を手渡す（5月20日）

<第6回企画展>

広報さむかわの60年

寒川町の情報紙『広報さむかわ』は、昭和24年(1949)6月創刊の『寒川弘報』にはじまり、今年6月に創刊60周年をむかえました。ところで、広報が今日のような形になるまでには、紙面や内容のうえで様々な変遷がありました。そこで、町民のみなさんにとって読みやすく親しみやすい広報をめざし、『広報さむかわ』が現在までにどのような歩みを積み重ねてきたのかを、広報の紙面や写真などを用い、いろいろな角度からご紹介しました。

この展示は、総務部広報情報課との共催で実施しました。また、パネル作成や展示替え作業にあたっては、21名のボランティアの皆様にご協力いただきました。

I 『寒川弘報』の誕生

創刊当時の広報は、広報委員会の編集によって作られていました。



II 紙面のうつりかわり

創刊号はB5版4頁でしたが、より読みやすく保存しやすい広報をめざし、何度も紙面の刷新が繰り返されてきました。



III 寒川の節目を伝える広報

広報の記念号と、村制・町制施行記念の特集記事を挙げ、町の節目を広報がどのように伝えてきたのかを紹介しました。



IV 親しまれる広報をめざして

広報はこれまで、連載や町民の皆さんの紙面参加など、様々な企画に積極的に取り組んできました。近年では新しい媒体による広報活動も繰り返し広がっています。

V 広報の取材活動

広報は毎月どのようにして発行されているのでしょうか？広報ができるまでの流れや作成の舞台裏を紹介しました。



【展示期間】平成21年3月8日(日)～8月30日(日) ※すでに終了しています。

ミニ展示 始めました

平成21年度の新規事業として、6月からミニ展示を開始しました。半年の会期で実施する大規模な企画展とは別に、エレベーターホールなどのスペースを使って、おもに文書館の業務紹介、公文書館をとりまく情報、資料の利用を促す企画など、一目でアピールできる構成にしているのが特徴です。今後も随時開催してまいります。

<第1回>アーカイブズを考える日

(会期：平成21年6月2日～6月30日)

6月1日は公文書館法の施行日、6月9日は国際アーカイブズの日と、公文書館の記念日が続くのにあわせ、公文書館制度の必要性や神奈川県内の公文書館施設を紹介しました。



<第2回>究極の行政改革をめざして —公文書管理法が成立—

(会期：平成21年7月1日～7月31日)

6月24日に公文書管理法が成立したのを受け、この法律のあらまじや、地方公共団体に及ぼす影響などについていち早く紹介しました。同法をテーマにした展示はおそらく全国で初めてと思われる。



<第3回>しらべてみよう！寒川のこと

(会期：平成21年8月1日～9月2日)



町内の小中学生向けの企画。夏休みの自由研究などの参考に、文書館資料を使ってもらえるよう、寒川町に関連する5つのテーマを提示し、それに関連する刊行物や資料を紹介しました。テーマは次のとおり。

- ①寒川でとれる果物、②むかしの学校、③相模線のこと、④寒川のむかしばなし、⑤寒川のごみ問題

◀ごみ減量のキャラクター「ゴミ野ゲンゾウ」

シリーズ 寒川の先人たち

第5回：寒川村の誕生 —入沢知周—

寒川村の初代村長です。日野屋の屋号で知られる一之宮の豪農の生まれで、明治14年(1881)には第1回神奈川県議会議員選挙に立候補し、当選しました。同22年、町村制の施行にともない11か村が合併して寒川村が誕生すると初代村長に就任、翌年4月まで務めました。

政治家としての活動の一方、実業家としても活躍し、貯蓄会社「湘東社」の設設計画、現在の郵便局にあたる切手売捌所や巡査駐在所の設置、また横浜区裁判所一之宮出張所を誘致するなど、寒川村の近代的な諸制度の基礎づくりに広く貢献しました。高座郡内の教員による教育研究結社、攻玉社が結成された際には社長に選出されており、啓蒙家としての顔も持っていました。

また、所有の山林の木が盗み伐られていると教えてくれた人に、「山まるごとは伐るまい」と平然と答えたという逸話(『郷紳遺芳』)も伝わっています。



入沢知周(1848～1915)

収蔵庫の資料から (3)

文書館の収蔵庫には、皆様から寄贈や寄託していただいた貴重な記録資料や写真をはじめ、寒川の歴史を物語るさまざまな資料を保存しています。今回もその一端をご紹介します。いずれも閲覧できますので、ご希望の方は気軽にカウンターにお申し出ください。

高橋博家文書



昭和25年創刊の「寒川中学新聞」第1号～第8号（第7号は欠）。紙面は連絡や諸注意、行事の彙報などが中心ですが、生徒や先生の作文や詩、短歌も掲載されており、当時の寒川中学校の雰囲気が伝わってくる内容となっています。

長田英雄家文書



昭和11年の相模鉄道団体旅行募集のチラシ1点。同年10月11日から善光寺や日光を2泊3日で回る旅程で、募集人員は200名となっています。また、旅費12円50銭は月賦で支払う方式で、毎月係員が集金に回ったようです。

健康課移管 幻灯資料



健康啓蒙活動用のスライド20本。「応急手当」、「栄養と主食」、「食中毒の話」といった、生活に密着したタイトルが並んでいます。その多くにシナリオ台本が付されており、映像に合わせて職員が弁士役となって語ったものと思われます。

山本裕三氏撮影写真



写真50葉。昭和48年頃に一之宮の森村スコ株式会社（現森村ケミカル株式会社）寒川工場の屋上から撮影された風景写真が中心です。富士山、大山、目久尻川などとともに、まだ田畑が広く残されていた当時の一之宮の風景が記録されています。

文書館 最近のできごと

■資料保存活用講演会「図書館・文書館の底力」 3月1日(日)



第2回資料保存活用講演会は、埼玉県戸田市の郷土博物館・図書館長の佐藤勝巳さんにお願ひしました。サブタイトルは「情報資源をみんなのために・未来のために」。博物館・公文書館・図書館のそれぞれの現場を知り尽くした幅広いご経験から、図書館と公文書館の違いやそれぞれの機能についてわかりやすく解説していただきました。「文書館がある幸せ」という表現で、寒川町の先進性を強調して下さったのが印象的でした。

■新聞ボランティア 4月7日(火)~



総合図書館から移管された、平成10年から18年までの神奈川新聞を読んで、寒川に関連する記事を拾い出してデータベース化する作業を、ボランティアの皆さんにお願ひすることになりました。毎週火・木・日曜のうち都合の良い日に、10名以上の方々が取り組んで下さっています。こうして作成されたデータベースが、レファレンスの基礎資料として利用者の役に立つ日も、そう遠いことではないでしょう。

■浜降祭ボランティア説明会 6月13日(土)



今年度、新たに始めたもう一つのボランティアが、寒川神社所蔵の「浜降祭日記」の翻刻作業です。これまで2冊の調査報告書で明治13年から昭和4年までの日記を活字にしてきましたが、その続編を刊行するにあたり、町民との協働で進めようと、皆さんのご協力を仰ぐことになりました。この日の説明会に集まったのは11名。他の4名とともに、史料のコピーをパソコンで書き写す作業に取り組んでくださっています。成果は来春に刊行の予定です。

■古文書を読む会の見学会 6月14日(日)



この会は、神奈川県立公文書館の古文書講座の卒業生が自主的に行っている勉強会です。ふだんは月に1度、県立公文書館に集まって活動していますが、外に出て研鑽を積むこともあるそうで、この日は40名が来館しました。まず寒川神社文書をテキストに、近世の寒川神社と別当・供僧・社人の関係について解説しました。その後、寒川文書館の設立経過を説明するとともに、施設を見学していただきました。

新刊のご案内

寒川町史研究 第22号



特集・高野聖と相模国Ⅱ
高野聖の日記「檀廻日並」につ
いての講演会記録と史料紹介。他
に文書館の活動記録などを載せま
した。A5判、142ページ。
価格：500円（送料210円）

今後の事業予定

開催中の展示のお知らせ

<第7回企画展>

「寒川村ができたころー120年前の世界ー」

エッフェル塔、チャップリン、大日本帝国憲法、そ
して寒川村。これらはぜんぶ1889年生まれです。寒川
村ができて120年になるのを記念して、寒川の行政の
始まりや人々の暮らしだけでなく、国内や海外の動向
を紹介し、当時の世界や日本における寒川の位置を考
えます。

会期 平成21年9月6日(日)～2月28日(日)

会場 文書館展示コーナー

編集後記

寒川文書館だより第6号をお届けします。

本年6月24日、参議院本会議で「公文書等の管理に
関する法律」が可決されました。この法律は行政を効
率的に運用し、国民の知る権利を保障するため、現用・
非現用の文書を適切に管理することを目的としたもので、「究極の行政改革」、「民主主義のインフラ」とも
呼ばれています。地方公共団体もこの趣旨に沿って適
切な施策を策定して実施すべきことが条文に明記され
ています。寒川町でも、適切な文書管理のあるべき姿
を担当レベルで検討し始めました。文書管理条例の制
定も視野に入れ、今後も研究を重ねてまいります。

ホームページもごらんください

ホームページでは文書館からのお知らせ、出版物の
ご案内のほか、さまざまなコンテンツをご提供してい
ます。ぜひいちどアクセスしてみてください。

ホームページアドレスは下記の通りです。

<http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

利用案内

開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分
寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分
※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第6号

平成21年9月30日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp